

加古川保護区 (加古川市・稲美町・播磨町)

保護司会だより

2018.12
5号

「再犯防止」と保護司の役割について

神戸保護観察所長 富田 彰乃

加古川保護区保護司会ははじめ関係機関の皆様には平素から更生保護事業に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年12月に「再犯の防止等の推進に関する法律」に基づく「再犯防止推進計画」が閣議決定され、国と地方公共団体が民間団体と力を合わせて犯罪者や非行少年のために「居場所と仕事の確保」等の施策を進めています。保護観察所では帰る家や引受人がいない人のために更生保護施設や自立準備ホームへの支援を強め、保護観察中の人等のための就労支援に力を入れて取り組んでいます。居場所の確保については自宅があればよしとは言えません。犯罪や非行をした背景の問題が解決されなければ再犯防止を進めていくことはできません。

ある時、17歳の女子少年(Aさん)の家庭訪問をすると居間に正方形のこたつがありました。典型的な中流階級の一戸建ての家で共稼ぎの両親は不在でした。本人が「テレビの正面がお父さん、右がお母さん、左が弟で向かいがお兄ちゃん」と四辺の座席に座る人を説明してくれたので「Aさんはどこに座るの?」と聞くと「私はこの部屋には座らない。」と言うのでびっくりしました。2階の自室に小さなテレビがあり、食事も一人で食べていると言うのです。兄と弟は学校の成績も良くて非行がなく「近所の担当保護司は困る、女の子だから女性の担当にして欲しい」と述べた父親は、町内会の役員の立場上知り合いの近隣の保護司が自宅に出入りすることを敬遠し、体裁を繕っているように見えました。母親は、兄弟と比べて本人は「頭が良くない、だらしない、わがまま」と本人の前で言い放ちました。高校を中退した本人は、学校にも家庭にも「居場所が

ない」生活をしていたのです。面接日には遅れずに顔を見せても、なかなか自分から話をしてくれないので、私は本人がどうして非行に走ったのか今ひとつ理解できずいました。往訪して、こたつの席順を見て初めて家庭における本人の疎外感がわかったような気がしました。母親は本人が不登校になってから家族との生活時間がずれていたため、本人の食べ物を用意してから出勤していたが、すっかり冷めてしまった後で起床する本人が自室で一人で食べていたと後に語ってくれました。冷たく突き放しているように見えた母親も本心は本人に立ち直って欲しいと願っていると思いました。数ヶ月してアルバイトを始めた本人が、給料をもらい「お母さんと二人で買い物に行ってごはんを食べた」と報告してくれたときには私もうれしくなりました。誰よりも本人は母親に認められたかったのであり、母親もその気持ちを受け止めてくれたので、改めて家庭は本人の居場所になったのです。

保護観察はサッカーの試合におけるイエローカードにたとえられることがあります。もう一度反則をしたりレッドカードが出たら「退場」つまり社会から隔離され、矯正施設に入れられるということです。そこで保護司の役割はカードを持った審判ではありません。既に処分を受けたプレイヤーに「あとがない」「これが最後」と言い渡す必要はありません。むしろ彼らがのびのびとピッチを走り回りゴール(自己実現)するのを優しく温かく見守り、伴走することが望まれていると思います。

これからも罪を犯した人や非行少年の「再出発を見守る社会」の実現と「再犯防止」のために彼らの歩調に合わせて伴走していただきますようお願いいたします。

第66回 兵庫県更生保護大会

平成30年10月26日(金) 高砂市文化会館じょうとんばホールで開催されました。本年度の保護司などのみなさんの叙勲・褒章・法務大臣表彰等の受賞をたたえる大会でもあり、我が加古川保護区保護司会でも多くの皆さん方の受賞が発表され、表彰されました。(受賞者の皆さんは下表の通りです)

オープニングはJazzの甲子園『Japan Student Jazz Festival』で5年連続グランプリを受賞した県立高砂高等学校の『Big Friendly Jazz Orchestra』の皆さま方の演奏で始まりました。10曲の演奏があり、Take The A-Train や Hay Burner など懐かしい曲があり、とても楽しいスタートでした。

式典では 兵庫県保護司会連合会長の吉田宗玄さんの式辞から始まり、神戸保護観察所の富田彰乃所長の挨拶

があり、顕彰式へと続きました。最後に大会宣言があり、万歳三唱で幕を閉じました。高砂保護司会の多くの皆様方のご助力に感謝します。



平成30年度 加古川保護区保護司会 被表彰者 (敬称略)

法務大臣表彰

池田博美 西多 攻
三宅康男

全国保護司連盟理事長表彰

石原敏美 岡本常太郎
新見好威

近畿地方更生保護委員会委員長表彰

繁田喜彦 田中 勲
三谷政則

近畿地方保護司連盟会長表彰

吉田昌代

神戸保護観察所長永年表彰(15年)

黒田裕子 高野哲仁

神戸保護観察所長功労表彰

岩井 洋 白井晴雄
木谷万里 木下惠介
高須義博 田中伸一
中田謙一

兵庫県保護司会連合会長表彰

稲葉文子 井上津奈夫
神吉秀穂 國廣 淳
黒石克彦 坂田 亨夫
相良大悟 畑 邦夫
水由紀代子 諸鹿良治

兵庫県保護司会連合会会長感謝状 (内助功労者)

大西満子 小南由子
西脇水功

【満齢退任保護司】 三宅康男
【任期満了保護司】 栗野昭彦 紅谷雅子

【新任保護司】 河合良成
杠 正人

いずりは



～ 白バイ乗務訓練を視察して～

犯罪予防部会

犯罪予防部会では9月19日(水)、本年4月小野市に開設された兵庫県警察緊急自動車総合訓練センターにおいて、白バイ乗務警察官の訓練状況を視察する研修会を実施しました。この研修会の趣旨は、私たち保護司は平素、刑余者に対する更生保護に取り組んでおり、その中には悪質運転者の更生保護もあり、検挙取締りに当たる白バイ乗務警察官の身を賭した厳しくかつ激しい訓練の状況を視察することで今後の更生保護に何か役立つのではないかと開催しました。

当日は犯罪予防部会芝田部会長以下30名が参加し、県警本部から交通機動隊長と運用担当の警部が来られ、最初の30分は教場において、隊長からあいさつとこの訓練センターについて面積が東京ドーム6個分の広



さで、全国的に見ても数少ない施設であるとの説明があり、さらに担当の警部から交通機動隊の歴史、白バイの歴史変遷について、さらに現在の白バイはホンダCB1300cc、重量350kgで、女性警察官も同じものを使っていると説明がありました。

いよいよ訓練状況の視察となり、最初に交通機動隊幹部及び訓練警察官男性5人、女性3人が整列する前に芝田部会長が立ち、訓練代表警察官が「部会長に注目」という号令に芝田部会長は答礼され「今日はあり

がとうございます。ケガをなされないよう頑張ってください。」と警察礼式に基づいて訓練は開始されました。訓練内容は、レーサーのようにただ速さを競うだけでなく、白バイで悪質違反者を検挙取締りするために、一般道で起こり得ることを想定したスピード走行中の飛び出しからの回避、一旦停止からの急回転等を組み入れたバランス走行、一般道を想定したカーブ等をふんだんに組み入れたコースをスピードで走るスラローム走行の訓練が行われましたが、その走行は超スピードと突如の減速、カーブでの限りない傾斜しての走行と危険との隣り合わせでその情景は文書では到底表すことはできないもので、参加者はびっくりする声を出したり、手に汗を握るばかりでした。最後にオフロードバイクにより30度から40度の道なき山を駆け上がるトライアル走行を披露してくれました。最後に最初と同じ隊形になり、木下事務局長から素晴らしい訓練を視察させていただきました。今後の更生保護に役立たせていただきますとお礼の言葉を申し上げ研修を終えたのですが、その言葉が終わるや参加者から大きな拍手が自然に沸き起こりました。秋晴れの中での研修会は余韻を残しながら終わりました。





第68回『社会を明るくする運動』作文コンテスト

この作文コンテストは、次代を担う小・中学生の皆さんに、日常の家庭生活、学校生活の中で体験したことを基に、犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行などに関して考えたこと、感じたことを作文に書くことを通じて、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

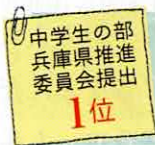
加古川保護区保護司会内で以下の応募作品がありました。その中から兵庫県推進委員会提出の1位となった小学生、中学生の作品を紹介しします。

参加学校数

小学校 33校
中学校 14校

応募作品数

小学校 724名
中学校 689名



「人生を変える温かい言葉」

中部中学校3年 正垣智寛

犯罪のない社会をめざして僕達が力を合わせて日々出来る事は心の中にあるその種をなくしてしまう、そんな人との関りができる社会だと思う。どんな人も心の底からの極悪人はいないと思う。生まれて生活していく中で、家庭や学校での生活で、心の中に知らず知らず傷が出来ていつのまにか大きくなり、その大きな傷が心の中で大きな事件を起こしてしまう火種になってしまう。何か悪いことをしようと思う人は、大なり小なり心の中に傷を持っていると思う。その傷にかさぶたの役目をするのは、やはり人との関わり人とのふれあいが大きいと思う。

テレビのニュースで、少年の犯罪を取り上げているが、近年昔に比べてその犯罪は、複雑かつ大きくなっている。家族や友達が側にいても、会話がなコミュニケーションがないなど、人間関係も希薄になっている中で、真剣に怒ってくれたり親身になって相談にのってくれる人が一人でもいたら悪い事をしようと思っている人も心にブレーキをかけてふみとどまると思う。本人だけが悪いのではないと思う。

今の時代は学校の先生、地域の大人は子供や未成年者に対して厳しく言えない。まして親でさえ自分の子供に対して強く叱ったりできない。虐待していると思われるからだ。確かに力まかせに叩いたりなど怪我をするほどの事はいけない。昔に比べて今の現代人が、心が強くなっているとか良い・悪いの判断がよく出来るとかそんな差はない。心に響く事を言ってくれたり親身になってくれたり一緒に泣いてくれたりなど、自分の心の中をさらけ出せる友達や家族が一人でもそばにいてくれる人とそうでない人とは大きく違う。その違いは、心の成長だ。

犯罪をする人も心から心配してくれる誰かがそばにいと、その人を悲しませたくないと思うのが普通なので、何でも話せる信頼できる大人や友達を自分の生活の中で少しずつ増やしていけたら犯罪をする人は減っていくのだと思う。ニュースでも自分のそばにいた祖母や祖父、幼なじみの友達がいなくなって誰にも相談する人いなくて、犯罪をしてしまうというパターンが多いからだ。

なぜ人は心が風邪をひくとおかしくなってしまうのかという事を自分なりに考えてみた。僕も誰かと話をしたり大笑いできたりすると気持ちが温かくなって前向きな気持ちになれる。会話は大切だと思う。なにげない一言がその人の人生までも変えるくらいの影響力がある事がある。確かに何も考えず人を傷つける一言を言ってしまっ相手は深く傷つく事もあるかも知れないが、人との関わり、ふれあいは心に勇気をもたらす事も確かだ。

毎日日本のあちこちで事件が起こっている日々だが、犯罪をする人間だけが悪いのだろうか。その人のそばに涙を流して真剣に怒ってくれる家族や友人が一人でもいればその人間は立ち直れると思う。なにげない一言が人の人生を左右するという事もありえるのだ。おせっかいでもめんどくさがられてもいいから悪い道に行こうとする人に対して“そっちに行くな”“やめろ”短い言葉でも声に出して言えたなら、心に届くかどうかはわからないが、犯罪を犯す人が減る事につながるように思う。心の中の暗い闇が犯行に走らせる素なのだ。

寄り添う、言葉をかける、一緒に笑う、一緒に泣く、少しだけの勇気が人の一生までも変えるそんな社会になるように願う。

僕も勇気を出して温かい言葉を言える人間になれるように努力していきたいと思う。

小学校の部
兵庫県推進
委員会提出
1位

「明るい未来のために」

野口南小学校5年 大西 泰雅

みんなが明るく笑顔でくらすことができれば、どんなに素晴らしいだろう。ぼくは、理想の未来について考えた。テレビのニュースでは毎日のように、事故や事件に関することが多く報道されている。事故や事件が無くなれば明るいニュースばかりになるのだろうか。世の中から犯罪をなくすためには、どうすれば良いのだろうか。

ぼくは今までに、犯罪という言葉はよく耳にしていたが、あまり身近なこととしてはとらえていなかった。どことなく、遠い所で起こっていること、自分とはあまり関わりのないものだと思っていた。実さいに、身近で犯罪が起こったという話を聞くことがなく学校でもいたって平和にくらしてきたからだ。

そんな中、自分の身にびっくりするような事件が起こってしまった。ぼくが二年生のころの出来事だ。庭にとめていたお父さんの自転車が朝起きて見ると消えてしまっていたのだ。毎日同じ場所にとめていたはずなのに、どこをさがしても見つからない。

「自転車ぬすまれてしまったわ。」

とお母さんが言っていた。お父さんは、とてもがっかりとした顔をしていた。ぼくはびっくりしてしまった。どろぼうって本当にいるんだと、とても腹が立った。なんでそんなことをするんだろうと、信じられなかった。その後聞いた話だが、その自転車はお父さんがはじめての給料で買った、とても大切にしていたものらしい。こわれても何度もしゅう理をして使い、たくさんの思い出のつまったお気に入りの自転車だったそうだ。自転車どろぼうは、自転車だけでなく、お父さんの大切な思い出までぬすんでしまったのだ。

では、なぜぬすんだりとったりしてしまう人がいるのだろう。生活が苦しくて、精神的な病気が原因で、スリルを楽しむため、うらんでいてし返しをするため…。思いつくかぎり

考えてみた。その中でも一番腹が立つのはスリルを楽しむためという理由だ。生活自体が苦しいわけでもないのに、人が困っているのを見て楽しんだり、自分の利益にしたりするなんて最低だと思う。精神的な病気の人は正直あまりくわしく知らないけど、そういう人たちの病気を治すための病院があると聞いたことがある。生活が貧しくて犯罪をしてしまう人は、少しかわいそうにも思う。日本の第二次世界大戦後には、そういう人たちがいたと本で読んだことがある。その中にぼくと同じぐらいの子供たちもいたそうだ。この場合も犯罪だけど、その人だけでなく、その時代の社会の状況も悪かったのだろう。

物をぬすむという犯罪以外にもさまざまな犯罪がある。人の命を奪うような犯罪は本当におそろしいと思う。犯罪が世の中から無くなれば本当にすばらしいと思う。

ぼくたちが生きていく未来を素晴らしい社会にするために、子供のぼくたちにも何か出来ることはないだろうか。悪い人をつかまえるのはけいさつの仕事だ。精神的な病気を治したり、さいばんで刑を決めたりするのも子供たちに出来ない。しかし、どんな大人になるかは自分で決めることが出来る。善悪の判断が付き、正しいことを行うことが出来る大人になれると、犯罪も減り明るい社会になるはずだ。これは子供たちの世界の中でも同じことが言える。正しい行動が出来る友達、みんなから好かれているし、信頼されている。子供であるから今のうちから、正しいこととはどんな事をきちんと学んでそれを行動できる子供でありたいと思う。大人になっても、この気持ちをなくさず、自分の子供にも正しいことを見せられる大人でありたいと思う。ゴミのポイ捨てを目の前で見たとき、ぼくは注意をするような勇気はないけれど、ポイ捨てをしない大人になることはぼくにはかん単なことだと思っている。そんなぼくと同じ思いの子供はたくさんいるはずだ。十年後のぼくがこの作文を見たとき、「その通り」と思える十年をすごしていきたいと考えている。

社会を明るくする運動作文「表彰者」のご紹介

兵庫県推進委員会 佳作

大西 泰雅(野口南小)

東野 結良(志方小)

加古川地区推進委員会委員長賞

篠原 直成(加古川中)

坂地 桃歌(別府中)

正垣 智寛(中部中)

長田 大器(山手中)

橋本 詩織(平岡中)

大橋 駿(稲美北中)

藤本 彩来(浜の宮中)

大西 帆夏(播磨中)

小松 陽太(加古川小)

馬場 紘己(川西小)

大西 泰雅(野口南小)

東野 結良(志方小)

魚澤 優里(平岡北小)

西川 晴香(母里小)

毛利 優那(浜の宮小)

杉山 優奈(播磨小)

播野 楓奈(別府小)

社会を明るくする運動 活動報告

恒例の『第68回社会を明るくする運動』の駅頭活動等を7月2日(月)午前7時よりJR加古川駅を中心に稲美のフーディズいなみを含め10箇所において実施しました。

メイン会場の加古川駅では、加古川地区の推進委員会委員長でもある加古川市長はじめ加古川警察署長・加古川駅長らが参加し、合わせて143名が駅頭等活動を実施しました。以下、それぞれの活動実施報告を紹介します。

JR 加古川駅頭活動報告

今年も恒例の社明運動が実施されました。市長その他関係機関の方々の参加もあり、それなりの広報活動効果はあったと思いますが、68回と言う歴史の中で消化行事のようにマンネリ化を感じたのは私だけだろうか？

社会を明るくする運動に協力をと訴えています、中にはどう言うことだろうと思う人がいるやもしれない。漠然とした内容でなく、飲酒運転を無くしましょう、青少年健全育成をお願いしますなどと、具体的な内容で訴えるなど、運動のあり方を一考すべきかなと思いますが、この運動は続けなければならないと思っています。

JR 東加古川駅頭活動報告

野口地区、平岡地区は東加古川駅頭でティッシュの配布を行いました。参加者は19名。

我々保護司のほか、市会議員、警察関係者、寺院関係者など広範囲の団体から参加を頂きました。

午前7時から手提げかばんにティッシュを20～30個入れ、駅の東西、階段を渡って北口に分かれ実施しました。要領の良い方は、あっという間にカバンが空となり、2度、3度と繰り返される方もありました。出勤時、急ぎ足で改札口に向かわれる方が多い中でティッシュを受け取っていただくためには工夫も必要なようです。いずれにしろ、ほぼ30分程で無事配り終えることができました。

JR 宝殿駅頭活動報告

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」の一環として、今年も7月2日(月)午前7時よりJR宝殿駅利用の通勤通学のみなさんへ「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」とロゴの入ったティッシュ配りをさせて頂きました。

市役所関係者、警察、加古川保護司会、加古地区更生保護女性会等、総17名の参加でした。あちこちで「おはようご

ざいます。」「社会を明るくする強調月間です。」「お気をつけて行ってらっしゃい。」等大きな声が響き渡ります。

私も、主に学生、生徒さん達に心を込めて声掛けをしました。無視する人、「ありがとう。」とお礼を言って下さる人、さまざまです。最近異常な天候による自然災害が多発しているなか、人の気持ちもある意味殺伐としてきて、住みにくくなってきたなあーと感ぜられる日本！その日本を背負って立つ青少年が少しでも幸せな生活を送ることができま



うにと念じながら配り終えることが出来ました。ご奉仕くださった皆様に厚くお礼を申し上げ報告とさせていただきます。

JR 土山駅北口頭活動報告



何処で遣っても同じと軽く考えて臨んだ土山駅北側へ場所を移しての“社明運動”。

土山・高畑の4人と支援団体の1名で対応するも、通学・通勤客が思った程多くなく、そのうえ受取

拒否する人が東加古川より多かったので配布終了までに時間を多く費やした。

又、配布する事だけを考えていたが、イザ当日になったら配布物品の持参方法・管理等々、少人数で配布する時の私のシュミレーション不足露呈。

幸いにも今年は天候に恵まれたが、恵まれない時の対応を考えると、来年以降の不安と反省多き土山駅北側の“社明運動”となった。

JR 土山駅南口頭活動報告

土山駅南側は、ロータリー、商業施設が整備され播磨町の玄関口となっております。7月2日午前7時から、播磨町清水町長、小学校校長、PTA会長ら9名参加の下で、同駅南側周辺で「社会を明るくする運動」の駅頭周辺一斉活動として通勤客、学生らティッシュペーパーを手渡しました。特に清水町長自らが、タスキをかけて「おはようございます。社会を明るくする運動にご理解を!」と声をかけながら活動していただいた効果は大きかった。

しかしながら、ティッシュペーパーを受け取る通勤客、学生らの「社会を明るくする運動」の趣旨に係る理解度は総じて低く、今後の認知度向上策の課題を残す形となりました。

山電尾上駅活動報告

7月2日尾上駅前にて保護司3名で“社会を明るくする運動”として啓発活動(ポケットティッシュ)を配布いたしました。「おはようございます。社会を明るくする運動です。」と声かけをして30分程で終了しました。

ほとんどの方々が受取りいただきました。隣家のタバコ



屋の店主さんまでが店でも配布いたしましよと協力をいただきました。受け取られる方々からも“ご苦労様”の言葉をいただき、無事終了いたしました。

山電浜の宮駅活動報告



7月2日浜の宮駅前“社会を明るくする運動”の啓発活動として保護司4名と推進委員6名でポケットティッシュを配布しました。駅前ロータリー

を中心に「おはようございます。社会を明るくする運動です。行ってらっしゃいませ。」と言いながら通勤・通学の皆さんにティッシュを手渡しするのですがなかなか受け取ってもらえない時もあります。そんな時でもめげずに声をかけ続けます。ありがとうと言って受け取ってくださる方ご苦労様頑張っねと顔見知りの方から言われるとうれしくなります。時には駅前のタクシーの運転手さんにお客さんに渡してくださいとお願いしています。

山電別府駅活動報告

本年度も別府ブロックでは公立小学校・中学校の校長先生にも参加をしていただき別府駅の北側・南側にて啓発活動を実施しました。

学校園の先生方への社明運動への参加要請は他の地域でも実施されていることから昨年度から実施をしています。別府駅を利用する高校生や地域の大人や企業・商店で働く人々へ呼びかけることで運動への理解や協力につながる活動として、今後も継続していきたい。

山電播磨町駅活動報告



播磨町の「社会を明るくする運動」は播磨町青少年育成推進委員会が推進母体となって行います。7月2日午前7時から播磨町駅周辺で、

会議議長、教育長、学校長ら21名が集まり、「社会を明るくする運動です。」と口々に叫びながら通勤客、学生らにティッシュペーパーを配りました。こんなトピックスがあり、ご老人から「社会を明るくする運動の趣旨は何ですか!」と尋ねられ、「この運動は法務省主催で、犯罪をした人の更生保護、また再犯をしないよう地域の力で繰り返しましようという運動です。」と説明すると、「えーことやけど難しいなー。」とこの運動の認知度の低さをうかがわせました。

フーディーズ稲美活動報告



猛暑の中、町教育長松尾哲子先生をはじめ10名で社明運動をスタートした。10時にはフーディーズの入口付近は次々と買い物客で引きも切らない。狭い町内のこと、中には

顔見知りの方も、2人、3人。「イヤー暑いのに何してはんのん?へーこんな運動があるんやネー、初めて知ったわ。それにしてもこの暑い中ご苦労さんやネー。熱中症になったらあかんで。無理せんとがんばってや。」との温かい言葉に励まされて、ティッシュを配り終える頃は、顔も背中も汗びっしょり。でも充実感にはしっかりと浸ることができた一日でした。

ブロックの活動報告

播磨ブロックからの活動報告

常務理事 藤澤 輝雄

1 播磨ブロックの特色

播磨町は面積 9.13 平方キロメートル、人口 3 万 4 千人余で、県下で最も狭くかつ比較的元気な町で「まちがいいきいきらめくはりま～未来につなげるみんなのまちづくり～」を標語にキャッチフレーズとする地域です。

播磨ブロックは保護司の定数 10 名で現在 1 名欠の 9 名で更生保護に取り組んでおります。

2 保護司の向上啓発活動への取り組み

播磨ブロックは各保護司間の連携が執りやすく年に 2～3 回情報交換会を開き、各保護司の現状報告を行うなど更生保護に係る向上啓発を図っております。

3 関係機関との連携強化

- 町役場とは福祉グループが窓口となり、広報誌「はりま」に保護司会の取り組みと保護司名を掲載し、また 30 年度は法務省の「再犯防止推進計画元年」を受け、

更なる連携協力を確認しております。

- 播磨町社会福祉協議会に保護司会が評議員に選定され、評議委員会への参画を通じて更生保護に係る理解を図っております。また福祉しあわせセンターの 1 室を借り、面接等に活用しております。
- 播磨町青少年育成推進委員会では保護司会が推進委員になっており、また同委員会は、「社会を明るくする運動」の推進母体でその実施に大きな理解を得ております。
- 教育委員会、小中学校及び県立高校との関係では、他のブロック同様に社明作文の応募依頼、連絡懇談会の開催など更生保護の理解と協力に努めております。

4 今後の取り組み

保護司に課せられた対象者との面接等の更生保護はもとより、今後は再犯防止推進法により地方自治体をはじめ関係団体との更生保護に係る理解と協力連携の構築が今以上に強く求められるものと考えております。

加古川ブロックからの活動報告

常務理事 西脇 司郎

「ひとりだけの卒業式」

何年か前のこと、中学 3 年の対象者 A 君は、卒業式に出ないと言い張って先生方を困らせたという話です。

明日の卒業式に出席する心づもりでいたところに、指導主任の先生から「今、校長先生が A 君宅へ向かわれた。私も行って欲しい。」と電話があった。要領を得ぬまま駆けつけると、校長先生と両親だけで肝心の A 君の姿はない。A 君は？と思いつつ校長先生の傍で話に加わった。

校長先生は両親に、卒業式に出るよう言い聞かせて欲しいと何度も懇願されるも父親は、言うには言うが決めめるのは本人だと、つれない返事ばかり。全く呆れかえり、往訪時の母親の応対振りとも重なって、やはりこの両親では無理なんだと変に納得した。

20 分程経って、父親の「降りてこい。」の一声で A 君は、渋々顔を出したが、校長先生に会釈もせず私と目が合っても何故ここに居るのかと怪訝そうな表情すら浮かべる有様。校

長先生は A 君に対し、熱意を込めて考え直すよう説得されるが、多くを語らず「ただ出たくない。」の一点張り。これ以上は無理と諦め、明日の準備で大変なこともあって、後は A 君と両親の考えが変わるのを待つしかないと判断。帰路、校長先生が「後は式に出てくれと願うだけ。」と呟かれたのが耳から離れず、併せて自分の無力さを身に染みて感じた次第。

晴れの卒業式、ひよっとすると A 君の姿があるのではと淡い望みを抱いて参列した。式次第も進み卒業証書の授与、A 君のクラスの番になり注目する中、A 君の名前が呼ばれ、その瞬間「はい。」の返事が聞こえた。返事の主は級友と分かり落胆すると同時に校長先生の胸中は如何ばかりかと思わずにいらなかった。

閉式も近づいた頃、素晴らしい卒業式への感情と A 君への感情が入り交じり、自ずと涙腺が緩んだことを今でも忘れられない。

A 君は翌日、校長室で卒業証書を受け取り「ひとりだけの卒業式」を終えたと指導主任の先生から報告を受けた。

それぞれの保護司の横顔 ～フランス語と出会って～

稲美ブロック 吉岡 泰毅

大学時代にフランス語を専攻し、初めて出会った言葉の学習に4年間、予習、復習、宿題、テストに追われる毎日を過ごし、2年生への進級の時に初めてフランスを訪ね、19歳の誕生日をパリで迎えました。

卒業後、フランス語とは無縁の職場に就職し、10年が過ぎた夏、グランドキャニオンをセスナ機で遊覧した時、フランス人の家族と一緒にになり、懐かしい言葉の響きに“Bonjour”と声をかけ、簡単な会話をしましたが、それ以上の言葉がでてこず、中途半端な会話に終わってしまい、ショックを受けました。



そして、教室の中だけのフランス語では、意味がない。「使ってこそ言葉」ということで、2年に一度を目標に受講生や仲間を引き連れ、フランスの様々な地方を巡り、広大な麦畑やブドウ畑の姿に農業国フランスを感じ、ラスコーの壁画をはじめ、数百年前の建物や風景がそのまま残る歴史や文化を大切にする国民性を肌で感じるとともに、地方でのフランス人のおせっかいなまでの心温まる親切さに感動する旅をしています。

この20年間でたくさんの受講生の方と出会い、11回に及ぶフランスの旅を通してフランスの地方のすばらしさを感じるとともに、たくさんの友人もできました。

フランス語との出会いは、私に多くの出会いと、学ぶことの楽しさ、異国を旅し、異文化に触れることの素晴らしさを教えてくれました。きれいな言葉遣いを学び、自国の文化に誇りも持つと同時に、異国の歴史、文化、ものの考え方を尊重できる寛容な心を育むことが語学学習の基本と考えています。

「政治の壁は低く、文化の壁は高く」をしっかりと心にもって、フランス語学習とフランスの旅を続けていきたいと思っています。



せっかく苦勞して学んだフランス語、もう一度やり直そうと考え、20年前、初めてフランス語と出会う人達と一緒に学ぼうと、加古川の氷丘公民館をお借りし、フランス語入門講座をスタートしました。

現在は、加古川総合庁舎の「かこむ」に場所を移し、毎週水曜日の夜7時から9時まで、入門クラスと基礎クラスの2クラスを開講しています。



受講生の方は、老若男女様々ですが、フランス語が好きという情熱と好奇心をもって受講されています。

その後の加古川

親善ソフトボール大会を観戦して



梅雨あけ早々7月10日、恒例の加古川理容組合と播磨学園の親善ソフトボール大会が同園グラウンドで行われた。炎天下の元、ランニングホームランあり、

空振り三振あり、またフルスイングした打球はキャッチャーフライとなりミットの中へ、と高校野球顔負けのいい試合だった。結果は8対5で理容組合の勝利に終わった。同組合代表あいさつの中で「今日の楽しかった思い出を、これからの生きるカテの一助にして下さい」という言葉が印象的だった。

2018 山手コーラスコンサート

恒例の『社会を明るくする運動』の一環として開催された、加古川学園・播磨学園合同の『山手コーラスコンサート』も35年となり、ボランティアとして『コーラスグループ』指揮者を含め30余名らの旅愁的選曲が心を震わせ、また心に沁みる、ふるさと色満載であり、楽しいひとときとなりました。学園生からもとても楽しみにしていますと代表のあいさつもあり、私も激励のあいさつをしました。

加古川刑務所男区運動会を観戦して

10月10日『体育の日』に加古川刑務所男区運動会が行われた。

朝から霧雨が少々、競技は小雨の中実施。開閉会式は無く、競技だけが実施された。受刑者にとって待ちに待った楽しみの運動会。彼らの気持ちを十分に汲んだ刑務所長以下職員の思いやりだったと思う。

本日は、雨のため全体行進はなかった。「全体行進」は一つの組織が集団としてどこまでまとまっているか。規律や士気の高さはどうであるのかなどを見る上で、とても参考になるものである。

本日は、最初の待機姿勢、整列姿勢、聞く姿勢、組や班の行進、数人での歩行姿勢などから、組織として十分にまとまり、規律や士気の高さがうかがえた。

競技では、徒競走が雨で地面が滑りやすく、転倒者が相

次いだ。しかし、最後まであきらめず己と組の仲間の為に頑張っていた。また、高齢者の参加者には優しく見守り、声援をあげ、完走時には拍手で労ったりしていた。

本日の演技や競技の中で、私は四つの「心」を見つることができた。一つは「仲間を気遣う心」、二つ目は「共に手を取る心」三つ目は「最後まであきらめずに頑張る心」そして四つ目は「ひたむきな心や姿勢」である。

受刑者達が、この運動会を通じて現したこの四つの心のどれか一つでも忘れずに、これからの日々の生活の中で、また実社会に出てからの指針になればと願った観戦であった。

播磨保護司連絡協議会 研修会報告



播磨保護司連絡協議会主催の持ち回り研修会が10月30日(火)西脇市の『みらいえ』にて開催されました。加古川保護区保護司会からは6名

(田中・藤澤・西脇・西口・秋山・今川)が参加しました。

午前中は基本テーマの『再犯防止推進計画元年にあたり』と『①社明運動の取り組みについて②再犯防止の取り組みについて③新任保護司としての取り組みについて』の取り組みが発表されました。加古川保護区保護司会も再犯防止について、今川が発表しました。

午後から、北は北海道から西は九州・熊本までの災害支援ボランティアをし続けている、兵庫県立西脇北高等学校の『災害支援ボランティア活動』の報告があり、高校生の献身的な活動内容に皆さん感動されていました。



保護区のあゆみ

私の「社会を明るくする運動」 加古川ブロック 小南 清一



私と妻は毎日、通学路で児童見守り活動をしています。挨拶の声の大きな子、小さな子、しない子色々です。でもみんな純真で可愛いです。中にはルール・マナー破りの子もいます、(注意しますが…) その子の性分にもよりますが、家庭や周りの環境による部分も考えられます。

「教育は、家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、社会の教えで実を結ぶ」と言う言葉があります。

私達は地域の一員として、ルール・マナーを守れる子供の健全育成に少しでも関わることが、社会を明るくする運動に繋がるのではないかと考えています。

保護司会行事(H30.7.1～H30.12.1)

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 7/2 (月) 社明駅頭活動 | 10/5 (金) 特別研修(薬物処遇関係) |
| 7/3 (火) コーラスコンサート | 10/10 (水) 加古川刑務所運動会・体育祭 |
| 7/10 (火) 社明ソフトボール大会 | 10/11 (木) 県高校生作文審査会 |
| 7/13 (金) 処遇基礎力強化研修会 | 10/16 (火) 安全・安心住民大会 |
| 8/3 (金) サポートセンター見学(小野・加東) | 10/22 (月) 三役会 |
| 8/8 (水)～9(木) 一般交通保護類型別処遇懇談会 | 10/24 (水) 満齢保護司退任式 |
| 8/27 (月) 三役会 | 10/26 (金) 県更生保護大会 |
| 8/29 (水) 指導力強化研修 | 10/30 (火) 播保連研修会 |
| 8/30 (木) 県保連総務部会 | 10/31 (水) 新任保護司辞令、研修会 |
| 8/31 (金) 第3回常務理事会 | 11/7 (水) 近畿代表者協議会 |
| 9/4 (火) 特別研修 | 11/8 (木) 研修協力雇用主との連携 |
| 9/7 (金) 第2回定例研修会 | 11/21 (水) 矯正施設見学研修会① |
| 9/10 (月) 新任保護司研修(応用編) | 11/25 (日) 薬物乱用防止街頭キャンペーン |
| 9/18 (火) 本部作文審査会 | 11/27 (火) 新任保護司研修会 |
| 9/19 (水) 白バイ乗車訓練視察研修 | 11/29 (木) 矯正施設見学研修会② |
| 9/20 (木) 代表者会議、県保連理事会 | 11/30 (金) 県保連 総務部会 |
| 9/22 (土) はりま矯正展 | 12/3 (月) 矯正施設見学研修会③(予定) |
| 9/27 (木) 保護司等中央研修会 | 12/10 (月) 三役会(予定) |
| 10/2 (火) 県作文審査会 | |



別府中学校▲



母里小学校▲

「社会を明るくする作文」表彰風景



平岡中学校▲



氷丘小学校▲



播磨西小学校▲



神吉中学校▲

新任保護司紹介

(平成30年10月28日付)

加古川ブロック 河合良成



この度、平成30年10月28日付で委嘱を受け、辞令伝達式及び新任保護司研修会(基礎編)に参加してまいりましたが、今研修を終え、いただいた膨大な関係資料に触れるにつれ、これは大変なことになったと実感しています。また、保護司としての責任の重さと難しさは想像以上であると、改めて覚悟をきめた次第です。

「更生」とは「更」と「生」を合わせて「甦らせる」とことと再確認し、更生保護の担い手として、私自身の拙い経験が少しでもお役に立つならと、諸先輩方のご指導ご助言をいただきながら、今の私に出来ることを誠心誠意取り組み、経験を積んでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

加古川西ブロック ゆずりは 杠 正人



この度、ベテラン保護司の方から熱心な要請を受けて、保護司を引き受けることにしました。

平成30年10月28日付で委託を受け、新任保護司伝達式と研修会に参加してまいりました。研修を受けて保護司の職務の難しさ人と人とのつながりの難しさを感じ、一人の若者の更生のお手伝いが本当に私で務まるだろうかと不安になってきましたが、引き受けたからには、研修会で聞いた「相手を信じ、愛情をもって接すること」を肝に銘じて、先輩保護司の先生方に指導を仰ぎながら精一杯取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

満齢退任あいさつ

(平成30年10月27日付付)

平岡ブロック 三宅康男



平成30年10月27日付をもって保護司を満齢退任することになりました。在任中は保護観察官をはじめ先輩先生方の御指導を賜りながら無事つとめさせて頂くことができました。その間20年で約35名を担当し対象者は15歳の中学生から82歳の老人までいろんな人と接することができました。私が彼等と接するにあたり心掛けたことは「どんな人にも誠意は通じる」という信念でした。もし相手に誠意が通じない時は、自分の誠意が足りないんだと自分にいい聞かせながら努力をしました。退任した後も担当した対象者ひとり一人の幸福と在任中の先生方の益々の御活躍を心よりお祈りいたします。

任期満了保護司

(平成30年10月27日)

梶野昭彦(加古川ブロック)
紅谷雅子(野口ブロック)

**永年に亘りご指導ご支援を賜り
有難うございました。**

編集後記

第5号の発行にあたり、ご協力・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本号は“社会を明るくする運動”に関する記事に多くの紙面を割きました。犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて、考える良い機会となりました。更なるお考えやお感じになったことなどがございましたら、ご投稿を宜しくお願ひ致します。

(広報係 中田)

保護司数と保護観察・生活環境調整事件係属件数

平成30年11月15日現在

保護司	保護観察				生活環境調整	
	少年		成人		少年院	刑事施設
97名						
男72名	1号	2号	3号	4号		
女25名	53件	12件	12件	28件		

発行所 加古川保護区保護司会
会長 岩崎光邦

〒675-8577 加古川市加古川町寺家町 177-12
加古川市総合福祉会館内
TEL 079-451-7868 FAX 079-451-8003
E-mail kakohogoku@outlook.jp